

文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）活用事例 【大阪府】吹田市立南千里中学校

大阪府の吹田市立南千里中学校 岩田 先生から、MEXCBTの利活用についてお話を伺いました。

南千里中学校では、家庭学習や自学学習での課題、また授業中の発展課題としてMEXCBTを活用されています。特に英語の学習において、活発な取り組みをされているようです。そこで、具体的な活用方法や、生徒や先生方の率直なご感想などを中心にお話を伺いました。

■■■学校HPのURL <https://www.suita.ed.jp/school/jhs/08-nansen/>■■■

1. 校内でどのように、MEXCBTの活用を進めていったか教えてください。

- ・校内研修にて、具体的な活用方法を周知した。
- ・情報担当教員や、普段からICT機器を活用している先生方を中心に各教科で紹介し、普及に努めた。

2. MEXCBTの具体的な活用方法を教えてください。

- ・日々、生徒に端末を持ち帰らせるにあたり、MEXCBTで課題を配信している。**自動採点機能**もあり、**教員の負担を軽減**したいというねらいもある。
- ・授業中に課題が終わり、他の生徒への援助も終わった生徒に対して、難度の少し高い問題を配信し、**個別最適な学習につながる**ように活用した。
- ・長期休暇中の必修の課題として生徒に配信し、その結果を全体にフィードバックして、ライティングやリスニングの問題点を共有することができた。
- ・英語科では大阪府が独自で作成した STEPS in OSAKA を積極的に活用している。

この学びのツールは、大阪府が作成した、4技能5領域とCEFR-J*1に準拠した「大阪版CAN-DOリスト」の各段階に応じたテスト問題（STEPS問題）を、MEXCBTで配信することで、生徒が端末上で問題を解いたり、解答状況を確認したりできる。

生徒が「Self training」することで、「英語を使って何ができるようになるか」を明確に意識しながら学習を進めていくことを実現する。*2

また、取り組んでいく過程でわからなかった単語や表現を自分で調べて学習し、自分が学んだことを One note に記録することで、**学びを学年の生徒全員で共有している**。

- ・英語科で各単元の最後の活動に結び付けて取り組み、「聞く→話す→書く」、「読む→話す→書く」などの活動を習慣化している。
- ・急な自習の場面での既習事項の復習や自学学習として利用している。

*1 CEFR-Jとは、欧州共通言語参照枠をベースに構築された英語能力の到達度指標のことです。

*2 STEPS in OSAKAは、MEXCBT上で全国での利用が可能です。フリーワードで「STEPS in OSAKA」等と入力し、検索・配信が可能です。

3. MEXCBTを使ってみての生徒の反応を教えてください。

- ・数学科では、積極的に活用していたが、計算問題等で解答がしづらいついた一面も見られた。
- ・英語科では、自習・必修ともに生徒には好感触である。

4. MEXCBTを使ってみての先生等の反応を教えてください。

- ・問題の種類が多く、レベルも多岐にわたるので使い勝手がよい。ただし、問題が豊富であるがゆえに、その選別に時間がかかってしまうこともある。ソート機能が充実したり、問題一覧の画面で問題情報の閲覧が可能な問題が増えたりしたら、より活用しやすくなる。
- ・MEXCBTに限らずそれぞれの学びのツールに改善の余地はあるため、使うことでより良いものにしていけると感じる。

5. 今後の展望、文科省へのご要望等*ございましたら教えてください。

- ・他の自治体の問題に生徒が触れることで、その都市に興味をもつ生徒もおり、学習ツールとしての側面以外にも、「**生徒の学び**」に対する姿勢を促すきっかけにもなっている。活用が全国的にもっと盛んになれば、日本国内の「異文化」に触れる機会も増えてよいのではないかと思う。

